

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2015年4月)

1. 内政

(1) 政府機関人事

ア 15日付で大統領府が発表したウルグアイ・アルゼンチン及びウルグアイ・ブラジル二国間合同委員会のウルグアイ側新代表委員は次の通り。

・ウルグアイ川合同管理委員会(CARU)

委員長:ガストン・シルベルマン

委員:マリオ・ゴンサレス・マルカルセ, シルビア・アギナガ

・ラプラタ川合同管理委員会(CARP)

委員長:フェリペ・ミケリニ

委員:ホセ・エドゥアルド・アギニャガ, パブロ・デ・マルコ

・海域合同管理委員会(CTMFM)

委員長:フリオ・スアレス

副委員長:カルロス・マタ

委員:ダニエル・ジラルドニ

・サルト・グランデ合同管理委員会(CTMSG)

委員長:ガブリエル・ロドリゲス・フレイタス

委員:エドゥアルド・バンデイラ

・ウルグアイ川国境管理委員会(CMDL)

委員長:カルロス・マタ

委員:ミゲル・デ・パラシオ

・クアレーム川合同管理委員会(CMRC)

委員長:セサル・フェレル

イ 21日, アルベルト・グラニャ中央銀行総裁が退任し, マリオ・ベルガラ前経済財務相が総裁に就任した。副総裁はホルヘ・ガマラ氏。

ウ 28日, アンドレス・トロサ氏が電話公社(ANTEL)総裁に就任した。副総裁はダニエル・フエンテス氏。就任式にはカロリナ・コッセ工業エネルギー鉱業相(前総裁)が出席した。大統領府によれば, トロサ新総裁のもとANTELは光ファイバー通信網の拡大, パンド(カネロネス県)におけるデータセンターの設置, 複合娯楽施設「アンテル・アリーナ」計画, ウルグアイと米マイアミを結ぶ海底ケーブルの敷設計画等に取り組むこととなる。

(2) 液化天然ガス再気化事業

10日付『エル・オブセルバドール』紙によれば, センディック大統領代行は9日, プンタデルエステで開催されたラテンアメリカ石油・ガス・バイオ燃料企業協会総会終了時の記者会見で, 液化天然ガス再気化事業の工事中断に関し, 大統領府が問題解

決に乗り出す旨明らかにした。同大統領代行は、本件に関しバスケス大統領とも同大統領のパナマ訪問出発直前に協議したと述べた。

センディック大統領代行は「我々は本件解決のために働く。建設工事がストップしている状況は好ましくない。本事業は当国により極めて重要な投資であり、ウルグアイは本事業とともに前進しなければならない」と述べた。

(3) 次期モンテビデオ県知事選挙

14日付で Cifra 社が公表した次期モンテビデオ県知事選挙(5月10日実施)に関する世論調査結果は次の通り。

ア 拡大戦線(FA):計59%(内訳はダニエル・マルティネス候補36%, ルシア・トポランスキー候補21%, FA のいずれかの候補2%)

イ コンセルタシオン党:計26%(内訳はアルバロ・ガルセ候補12%, エガルド・ノヴィク候補10%, リカルド・ラチェティ候補2%, コンセルタシオン党のいずれかの候補2%)

ウ 独立党:2%

エ その他候補,「分からない」, 白票, 棄権:計13%

2. 外交

(1) バスケス大統領の第7回米州サミット出席

10～11日, バスケス大統領がパナマにて開催の第7回米州サミットに出席した。11日の第一回全体会合にてバスケス大統領は, 地域機関への積極的関与, 同サミットへのキューバの復帰歓迎の意と米・キューバ関係正常化交渉に見られる米州の新しい現実への支援の表明, コロンビアにおける和平対話への支援の表明につき演説した。

またベネズエラ情勢につき同大統領は, 「ウルグアイは, ベネズエラを米国に対する脅威であると見なす米大統領令を拒否する。国際法, 紛争の平和的解決及び内政不干渉原則の完全な有効性を再確認し, 各国政府に対し, 国際法に反する一方的な抑圧的手段の適用を慎むよう改めて呼びかける。我々の兄弟であるベネズエラ人民には, 法及び人権を基礎とする国家へ向け, 相互尊重, 制度と秩序の遵守, 国民の自由で民主的な決定に基づく対話を呼びかける。対話それ自体は到達目標ではないが, 対話なくして可能な出口は見えない。」と述べた。

(2) バスケス大統領と米州各国との首脳会談

10～11日, バスケス大統領は第7回米州サミット出席のためパナマを訪問した際, 米国, ペルー, コロンビア, パラグアイの各国首脳と会談を行った。

ア ウルグアイ・米首脳会談(10日)

バスケス大統領はソリス・コスタリカ大統領とともにオバマ米大統領と会談した。今次首脳会談は米国側から要請されたものであり, 第7回米州サミットのテ

一マである「公平性のある成長」につき意見交換することを目的としたもの。

会談前の記者会見にてバスケス大統領は、フィリップ・モリス社とウルグアイ政府との裁判に関し、オバマ大統領に支援を要請すると述べた。「バ」大統領は、「ウルグアイは恐れてはいない。多国籍タバコ企業の商業利益から国民の健康を守る政府の権利と義務を擁護する」と述べた。またバスケス大統領は、「人類は未だタバコ消費という巨大な流行病を自覚していない。世界では毎年7～8百万人がタバコ消費により命を落としている。オバマ大統領もまたタバコ消費による健康問題の深刻さを公的に明らかにしている」と述べた。

イ ウルグアイ・ペルー首脳会談(11日)

バスケス大統領とウマラ・ペルー大統領は、両国外相同席のもと二国間会談を行い、良好な二国間関係の深化及び両国共通の利益に関する意見交換を継続していくことで合意した。また今次会談においてウルグアイ政府は、「ウ」産米の秘への輸出に関する問題の解決に関心がある旨表明した。更に両国政府は外相レベルでの往来につき日程調整を行う旨合意した。

ウ ウルグアイ・コロンビア首脳会談(11日)

バスケス大統領はニン・ノボア外相同席のもとサントス・コロンビア大統領と会談し、コロンビア政府が進めているコロンビア革命軍(FARC)との和平へ向けた対話を支援すると表明した。会談では良好な二国間関係の深化を継続することが合意され、特に両国が有する農業生産の経験につき意見交換することへの関心が表明された。

エ ウルグアイ・パラグアイ首脳会談(11日)

バスケス大統領とカルテス・パラグアイ大統領は、両国外相同席のもと首脳会談を行った。会談ではメルコスール、インフラ、エネルギー等両国共通の関心事項が話し合われ、今後意見交換を継続することが合意された。両大統領は、非常に前向きな会談が行われたことに満足の意を表した。また会談でバスケス大統領はカルテス大統領をウルグアイに招待する旨表明した。更に、ニン・ノボア外相が28日にパラグアイを訪問しロイサガ外相と会談する予定である旨通知された。

(2) 要人往来

ア 16日、ニン・ノボア外相がブラジルを訪問し、マウロ・ビエイラ伯外相及びアルマンド・モンテイロ・ネット伯開発商工相と会談した。会談の結果、5月後半の時期にバスケス大統領とルセーフ伯大統領の首脳会談を実施することが確認された。また両首脳会談に先立ちウルグアイ・伯高級レベルグループ会合(GAN)を実施することが合意された。

メルコスールにつきニン・ノボア外相は、ウルグアイにとりEUとの交渉を進展させることの重要性を伯に伝えた。また同外相は、「メ」輪番議長国を務める伯

はビエイラ外相のもとで大きな成功を収めるであろうと述べた。会談ではエネルギー、水上交通、インフラ整備、通商関係等、二国間関係の主要テーマが話し合われた。また現在二国間関係は最良の状態にあり、両国ともに今後二国間対話をより深化させることに関心を有する旨再度確認された。

- イ 24日、ニン・ノボア外相がチリを公式訪問し、バチエレ大統領及びムニョス外相と会談した。会談でニン・ノボア外相及びムニョス外相は、両国が関心を有する二国間関係、地域課題、多国間問題につき話し合った。

二国間関係につき両外相は、社会開発、環境、エネルギー、生産振興の分野での二国間協力プロジェクトの効果的な実施、両国の軍部独裁時代における人権侵害調査の経験、南極での活動における協力と調整、良好な通商関係、相互投資を促す刺激策等を話し合った。地域課題につき両外相は、UNASUR及びCELACの現在と将来及び太平洋同盟とメルコスールの統一につき話し合った。多国間問題につき会談では、両国が共に参加する国連ハイチ安定化ミッション(MINUSTAH)、ウルグアイの国連非常任理事国入り及びアルマグロ前外相のOAS事務総長選挙当選へのチリからの支持等が議題に上った。

更に両外相は、ウルグアイ、チリ及び地域の第三国の三角協力プロジェクトを推進すべく、近くウルグアイ・チリ・メモランダム協定に署名することで合意した。

- ウ 28日、ニン・ノボア外相がパラグアイを訪問し、ロイサガ外相と会談した。会談で両外相は次回ウルグアイ・パラグアイ高級レベルグループ(GAN)会合の議題につき話し合った。又両外相は、ウルグアイのパラグアイ・アカライ水力発電所からの電力購入につき、二国間委員会を設置し右可能性を検討することで合意した。

会談後の記者会見でニン・ノボア外相は、ウルグアイはパラグアイの電力を購入することに関心がある旨表明した。パラグアイにはブラジルと共有のイタイプ・ダムがあり、世界で二番目の発電量を誇る。又アルゼンチンともヤシレタ・ダムを共有している。ロイサガ外相は、両国通商関係を深化させることの重要性を指摘し、パラグアイ産品の輸出を促進すべくウルグアイ政府がモンテビデオ及びヌエバ・パルミラ港の利用を許可したことに感謝の意を表した。

なお報道によればパラグアイは現在世界第四位の大豆輸出国であるが、同国産大豆の36%はモンテビデオ港及びヌエバ・パルミラ港から輸出されている。

- エ 14日、ホルヘ・アレサ・ベネズエラ副大統領が来訪し、センディック副大統領と会談した。会談後の記者会見でセンディック副大統領は、燃料アルコールセメント公社(ANCAP)がベネズエラから購入している石油代金をウルグアイからベネズエラへの乳製品、コメ、鶏肉その他の輸出により代替支払いする必

要性につき検討したと述べた。また同副大統領は、右目的のためにベネズエラとの間に恒常的な通商関係を構築することが重要であると述べた。

またベネズエラ情勢につきセンディック副大統領は、「ウルグアイは、ベネズエラが外部の介入なしに物事を決定する主権を有することを確認し、いかなる類いの外部からの介入も非難する」と述べた。

3 治安関係

- (1) 2014年中の内務省による犯罪統計が発表された。主な犯罪の発生件数は以下の通り。殺人262件(前年比+2件)、強盗事件20,097件(前年比+2,070件)、窃盗105,871件(前年比+4,505件)、強姦事件310件(前年比-34件)、傷害事件10,291件(前年比+1,046件)、家庭内暴力29,122件(前年比+3,036件)
- (2) 内務省の発表によると、2014年中の殺人事件は262件であったが、この47%は犯人が逮捕等されていない未解決事件である。2011年の未解決事件は28%であったことから、ここ数年で急激に殺人事件の未解決事件が増えている。原因としては、犯罪組織等の内部抗争による報復殺人で、犯人が判明しない、又は犯人を知っていても報復を恐れ申告しない等があげられる。
- (3) 受刑中の囚人及び元囚人について、モンテビデオ県は県当局と受刑者国家財団との間で、労働体験を実施することについて合意に至った。労働作業は労働財団のカリキュラムに従って実施される。5月に開始されることで調整中であり、男女5名に対して給料や謝礼金が支払われる。囚人等は社会対策銀行と国家安全銀行に登録され、衣類や安全用具が提供される。協定により、モンテビデオ県は受刑者センターで作業に必要なブロック、配管等の道具を提供しなければならない。
- (4) 受刑者財団によると、刑務所を釈放された者に対する調査で、2010年当時は刑務所出所時、30ペソ(バス代として)を支給されたが、当日中に窃盗などの再犯をするケースが71パーセントに及んだ。試験的に支給額を100ペソとしたところ、バスで自宅へ帰る途中に、支給された現金でスナックと飲み物を買うことが出来るため、再犯率が25パーセントに抑えられたとの研究結果が発表された。わずか70ペソの増額で再犯率を効果的に抑える事が出来る研究結果となった。
- (5) 大半は大学生のアルバイトである100人がシウダ・ビエハ地区にあるモンテビデオ・センターで千台の防犯カメラを6時間4交代でモニタリングしている。モニタリングしている地域としては、シウダ・ビエハ、セントロ、コルドン、パソ・モリノ、ヘネラル・フローレス、ウニオンである。事件発生時は、パトロール中の警察官は連絡を受け、現場へ急行することとなる。

4 その他

13日午前、『収奪された大地』の著者として著名な作家エドゥアルド・ガレアーノ氏がモンテビ

デオ県内の病院にて肺癌により死去した。享年74歳。14日にはウルグアイ議会にて政府主催の告別式が行われ、親族及び近い友人が出席し、バスケス大統領、センディック副大統領、ムヒカ前大統領、アレアサ・ベネズエラ副大統領、パローディ・アルゼンチン文化大臣、スペイン人歌手のジョアン・マヌエル・セラット氏等が参列した。

ガレアーノ氏は1940年9月3日モンテビデオ生まれ。父方はイギリス人地主の、また母方はフルクトウオソ・リベラ初代大統領の子孫にあたる家系。書店勤務の母親の影響を強く受けて育つ。13歳時、両親の離婚とともに中学を中退、職を転々とする生活を送る。14歳で初めて政治風刺をウルグアイ社会党機関誌に掲載して以降、1960年代にはウルグアイのジャーナリズムで活躍した。23歳で最初の小説を発表、1971年には『ラテンアメリカの切り裂かれた血管』（邦題『収奪された大地』）を出版した。73年、文民・軍部独裁体制下で投獄された後国外追放処分、アルゼンチンに亡命後更にスペインに亡命。84年、バルセロナにて三部作『火の記憶』出版。85年の民政移管によりウルグアイに帰国、以降死去までモンテビデオ在住。幼少期にはプロ選手を夢見るなど熱烈なサッカーファンであり、『フットボールの光と影』（邦題『スタジアムの神と悪魔』）などのエッセイも著す。

ガレアーノ氏の作品は40にのぼる。特にラテンアメリカ「発見」以来の500年史をヨーロッパ及び米国によるこの大地の搾取の歴史として描く『ラテンアメリカの切り裂かれた血管』は20カ国語以上に翻訳され「ラテンアメリカ左派のバイブル」とも呼ばれる。同書は2009年米州サミットでチャベス大統領（当時）がオバマ大統領に贈呈したことで話題となり、通販サイト「アマゾン」にて一時売り上げ2位を記録したこともある。

（了）